

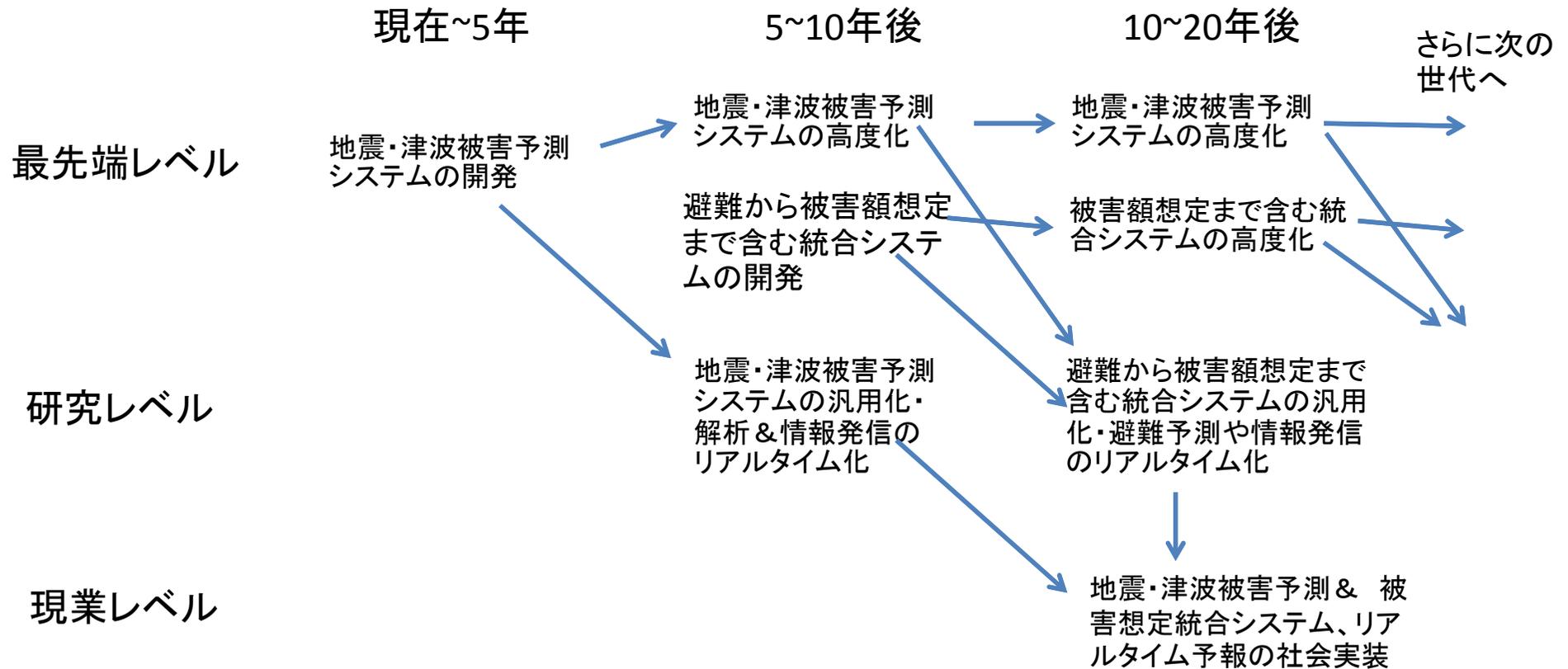
# 地震津波防災分野の アプリケーション開発の在り方

金田義行

海洋研究開発機構 地震津波・防災研究プロジェクト

今後のHPCI計画推進のあり方に関する検討ワーキンググループ  
2013.02.18

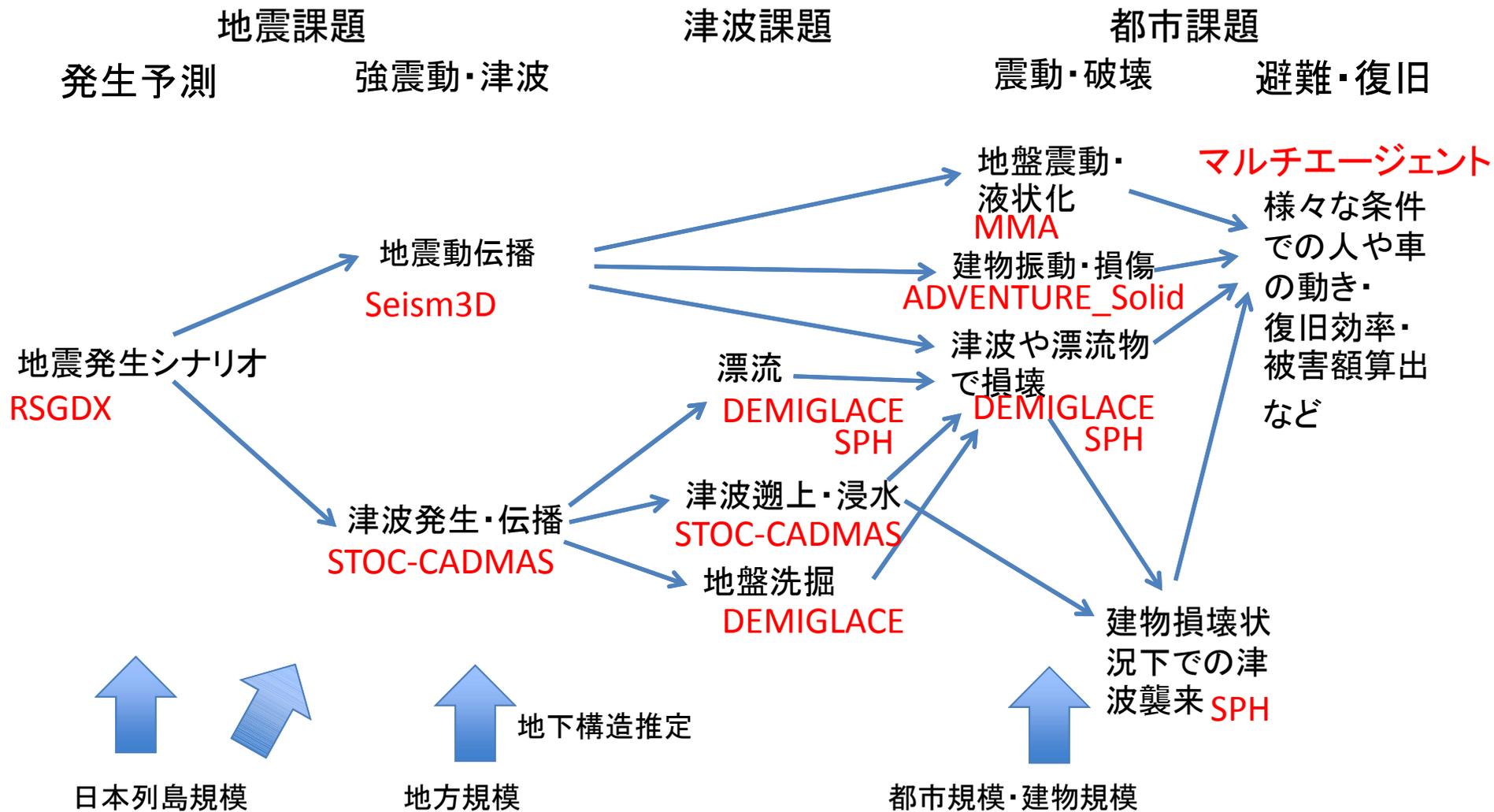
# 防災・減災の社会的課題における アプリの開発から社会実装までの流れ



## ー 開発(最先端)から社会実装(現業)までの流れを作る

- 中央防災会議等国や自治体の対策で使われるツール化
- リアルタイム予報(緊急地震速報や津波警報)の高度化(避難情報等)
- 科学的知見とその不確かさ(多数シナリオ)にもとづく想定(の幅)の明確化

# 地震発生から避難・復旧までをつなぐ 防災・減災のための統合ツール開発



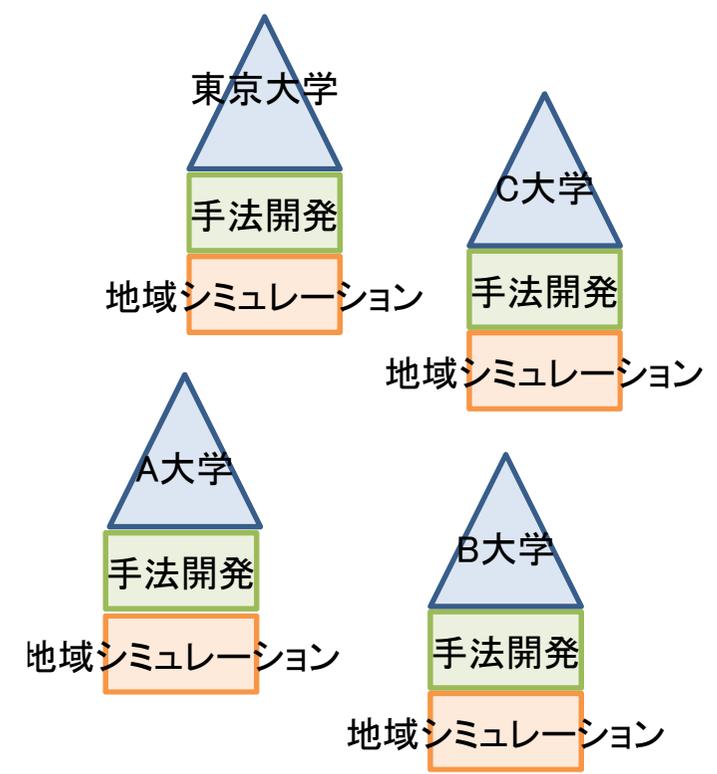
– 地震発生から避難まで、各段階を対象に開発されてきたプログラムのIn/Outをつなぎ、防災・減災のための統合ツールを開発

# ツールの継続的開発・活用のための構造化(都市課題の取り組み)

堀宗朗教授@東大地震研より

## 現状

各大学が独自の手法を開発し、地域のシミュレーションを実行

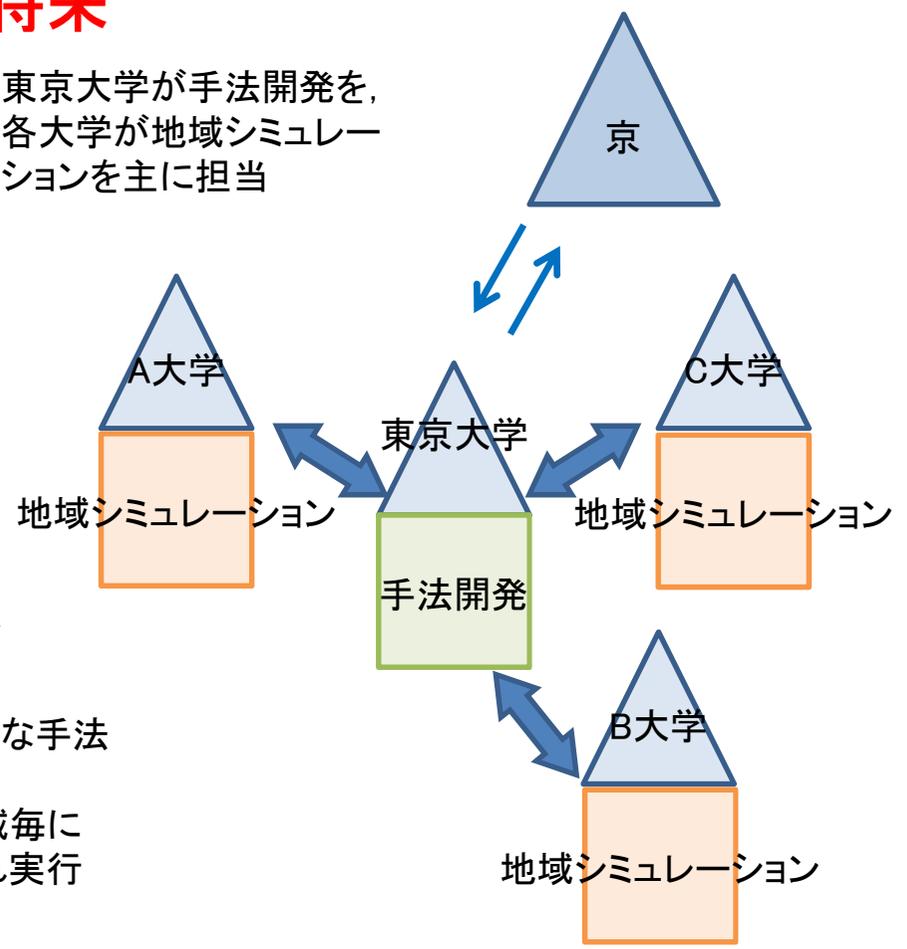


問題点  
計算機の進歩に追随する手法の更新は多大の労力を要するため、手法開発と地域シミュレーションの両立が困難

## 将来

東京大学が手法開発を、各大学が地域シミュレーションを主に担当

## 構造化



- 共有される基盤的な手法を集中開発
- 基盤的手法を地域毎にチューンアップされ実行

### 構造化のメリット

- 開発される手法は計算機の進歩に追随可
- 地域社会に災害情報を継続的に発信
- 被災地域の教訓を共通のシミュレーションを介して共有